



平成27年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年8月5日

上場取引所 東

上場会社名 アルコニクス株式会社

コード番号 3036 URL <http://www.alconix.com>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 正木 英逸

問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員財務部長 (氏名) 宮崎 泰

TEL 03-3596-7400

四半期報告書提出予定日 平成26年8月7日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年3月期第1四半期の連結業績(平成26年4月1日～平成26年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第1四半期	48,404	7.7	961	△16.9	1,713	58.1	1,305	△5.3
26年3月期第1四半期	44,961	△5.9	1,156	14.0	1,083	△15.2	1,378	87.3

(注) 包括利益 27年3月期第1四半期 981百万円 (△64.3%) 26年3月期第1四半期 2,750百万円 (284.9%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第1四半期	102.65	102.28
26年3月期第1四半期	108.45	108.14

当社は平成26年8月1日付で、当社普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。そのため当該株式分割が前連結会計年度の期首に行われたと仮定して1株当たり四半期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%		
27年3月期第1四半期	87,937		22,107		24.5	
26年3月期	85,664		21,368		24.3	

(参考) 自己資本 27年3月期第1四半期 21,577百万円 26年3月期 20,833百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	30.00	—	35.00	65.00
27年3月期	—	—	—	—	—
27年3月期(予想)	—	18.00	—	18.00	36.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

当社は平成26年8月1日付で、当社普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。そのため平成27年3月期(予想)の年間配当につきましては当該株式分割を考慮しております。また株式分割を考慮しない場合の平成27年3月期(予想)の年間配当は1株当たり72円に相当いたします。

3. 平成27年3月期の連結業績予想(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	101,000	13.6	1,900	1.2	2,400	33.4	1,700	△5.6	133.68
通期	206,000	12.1	3,600	3.3	4,200	16.7	2,900	△7.8	228.04

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

平成27年3月期(予想)の1株当たり当期純利益につきましては、株式分割を考慮した額を記載しております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 — 社 (社名) 、 除外 — 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、[添付資料]4ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(2)四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

27年3月期1Q	12,717,600 株	26年3月期	12,717,600 株
----------	--------------	--------	--------------

② 期末自己株式数

27年3月期1Q	370 株	26年3月期	370 株
----------	-------	--------	-------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

27年3月期1Q	12,717,230 株	26年3月期1Q	12,711,358 株
----------	--------------	----------	--------------

当社は平成26年8月1日付で、当社普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。そのため上記の株式数につきましては、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算出してあります。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、[添付資料]4ページ「2. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における世界経済は、米国が前四半期の寒波によるマイナス成長から当四半期に入り持ち直しており、欧州も緩やかな景気回復が続きました。また、中国経済も政府の景気刺激策により底割れを回避しております。

わが国経済は、消費税増税の影響で消費が落ち込む一方、輸出も伸び悩む等、景気が低迷いたしました。

当社グループを取巻く非鉄金属業界においては、スマートフォン・タブレット端末向け需要が引続き伸び、ハイブリッド車を中心に自動車向けも堅調に推移しましたが、家電向けは引続き低迷いたしました。

このような経済環境のもと、当社グループの売上面においては、自動車・半導体向け伸銅品、化学品用途の金属珪素、タングステン・モリブデン等のレアメタル、及び国内連結子会社が製造する半導体製造装置用精密研削加工部品等が増加いたしました。一方、プラント、船舶向けチタン、ニッケル製品の輸出入取引、空調機器向け銅管、及び銅製錬用銅スクラップ等の取扱いが減少いたしました。また、レアアースについては主要取引先での在庫調整一巡から軽希土類の取扱いが増加いたしました。

利益面では営業利益は円安に伴う輸入取引の利益減少等により減益となりましたが、当第1四半期連結累計期間に住宅建設資材、自動車関連部品の設計、製造を手掛けるケイ・マック株式会社を持分法適用関連会社とし、負ののれん発生益を含む持分法による投資利益を営業外収益に計上したことにより、経常利益は大幅に増加いたしました。四半期純利益は前第1四半期連結累計期間に国内連結子会社2社の株式取得等に伴う負ののれん発生益を特別利益に計上したため、前年同期に比べ減益となりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間における連結経営成績は、売上高48,404百万円（前年同期比7.7%増加）、営業利益961百万円（同16.9%減少）、経常利益1,713百万円（同58.1%増加）、四半期純利益1,305百万円（同5.3%減少）となりました。

当第1四半期連結累計期間におけるセグメントの業績は次のとおりであります。また、各セグメントの売上高は、セグメント間の内部売上高を含んでおります。

・軽金属・銅製品事業

消費税増税及び建築資材の高騰と職人不足の影響を受けて住宅建材分野の需要が停滞気味でありましたが、自動車、航空機、半導体製造装置分野の取引はおしなべて堅調に推移いたしました。国内流通子会社の収益も需要分野の動向によって明暗を分けましたが、国内製造子会社の業績は好調を維持いたしました。なお、本年4月に持分法適用関連会社となったケイ・マック株式会社の負ののれん発生益を含む持分法による投資利益を営業外収益に計上したことにより、セグメント利益は大幅な増加となりました。

この結果、当セグメントにおける売上高は18,920百万円（前年同期比11.3%増加）、セグメント利益は1,150百万円（同240.0%増加）となりました。

・電子・機能材事業

環境関連部材の輸出入取引、並びに国内における太陽光発電関連部材の出荷が好調に推移しており、成長分野であるスマートフォン、タブレット端末関連部材においても順調に推移いたしました。また、米国めっき材料製造子会社でのめっき関連素材の取扱いは前年同期に比べ増加いたしました。また、チタン・ニッケル製品の輸出入取引は、中国市場、欧州市場向けについて、ともに低調に終わりました。

一方、レアメタル・レアアースの分野においては、自動車需要の増加を受けてタングステン、モリブデン等レアメタルの取扱いが増加し、特に取引先の在庫調整一巡から、好調なハイブリッド車の需要を背景に磁性材料、触媒用途等の軽希土類の取扱いが増加いたしました。なお、利益面においては前年同期に円安要因による利益の上乗せがあったことから前年同期に比べ若干減少いたしました。

この結果、当セグメントにおける売上高は19,231百万円（同6.8%増加）、セグメント利益は504百万円（同3.8%減少）となりました。

・非鉄原料事業

消費税増税の影響から自動車生産は前四半期より減少いたしました。前年同期比では増加、また鉄鋼生産も概ね堅調に推移いたしました。売上面では、鉄鋼用脱酸材、軽金属圧延用マグネシウム地金、化学品用金属珪素、製錬用アルミスクラップ、亜鉛・鉛地金の売上が増加いたしました。また、アルミ輸入合金地金と製錬用銅スクラップの取扱いにおいて、円安による利幅の減少と競合他社との競争激化により収益の低減を余儀なくされました。

この結果、当セグメントにおける売上高は7,831百万円（同5.3%増加）、セグメント利益は26百万円（同78.4%減少）となりました。

・建設・産業資材事業

消費税増税後の反動によって、新設住宅着工戸数は前年同期比でマイナスに落ち込むなど、国内における建設産業資材業界は、前期までの上昇基調が一変し、反動需要減による落ち込み、及び資材高騰・人手不足で、新規物件を受注できない状況が慢性化し、配管機材類の取扱いは全体として低調に推移いたしました。また、円安に伴うコスト上昇によって、バルク貯槽や素形材の輸入取引も低迷いたしました。一方、海外におけるバルブ類の売上増加がありましたが、利益面では国内及び輸入取引の減少とパーツ安による為替評価損の計上等により減益となりました。

この結果、当セグメントにおける売上高は3,480百万円（同5.1%増加）、セグメント利益は34百万円（同67.8%減少）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①財政状態

a. 流動資産

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は69,187百万円であり、前連結会計年度末比2,850百万円の増加となりました。主な内訳は受取手形及び売掛金の増加2,210百万円、たな卸資産の増加2,108百万円、及び現金及び預金の減少1,352百万円であります。

b. 固定資産

当第1四半期連結会計期間末における固定資産は18,750百万円であり、前連結会計年度末比577百万円の減少となりました。主な内訳は、減価償却に伴う有形・無形固定資産の減少450百万円、及び投資有価証券の増加並びに社債の償還等による投資その他資産の減少127百万円であります。

c. 流動負債

当第1四半期連結会計期間末における流動負債は52,046百万円であり、前連結会計年度末比1,859百万円の増加となりました。主な内訳は支払手形及び買掛金の増加1,412百万円、短期借入金の増加382百万円、1年内返済予定の長期借入金の増加44百万円、及び未払法人税等の減少272百万円であります。

d. 固定負債

当第1四半期連結会計期間末における固定負債は13,782百万円であり、前連結会計年度末比325百万円の減少となりました。主な内訳は流動負債への振替に伴う長期借入金の減少228百万円であります。

e. 純資産

当第1四半期連結会計期間末における純資産は22,107百万円であり、前連結会計年度末比739百万円の増加となりました。主な内訳は利益剰余金の増加1,081百万円、上場株式の時価評価に伴うその他有価証券評価差額金の増加116百万円、及び為替換算調整勘定の減少415百万円であります。

②経営成績

a. 売上高

売上高の主な増加要因は、半導体向け銅合金条、自動車部品向けアルミニウムスクラップ、半導体製造装置向け精密研削加工部品並びにめっき材料、化学品用途の金属珪素、及びタングステン、モリブデン等の取扱いであります。一方、主な減少要因は、銅製練向け銅スクラップ、空調機器向け銅管、チタン・ニッケル製品の輸出入取引等であります。レアアースにおいては、軽希土類の取扱いがハイブリッド車向け需要に支えられ増加いたしました。重希土類については市況低迷と取引先の在庫調整が続き低迷いたしました。

この結果、当第1四半期連結累計期間における売上高は、前年同期比7.7%増加の48,404百万円となりました。

b. 売上総利益

円安の修正等により、当第1四半期連結累計期間における売上総利益は前年同期比5.5%減少の2,772百万円となりました。

c. 販売費及び一般管理費

国内外子会社における陣容の拡大等に伴い、当第1四半期連結累計期間における販売費及び一般管理費は前年同期比1.9%増加の1,810百万円となりました。

d. 営業利益

上記の結果、当第1四半期連結累計期間における営業利益は前年同期比16.9%減少の961百万円となりました。

e. 営業外収益、営業外費用

ケイ・マック株式会社の負ののれん発生益を持分法による投資利益に計上したことにより、営業外収支(営業外収益－営業外費用)は751百万円の収入超となりました(前年同期は73百万円の費用超)

f. 経常利益

上記の結果、当第1四半期連結累計期間における経常利益は前年同期比58.1%増加の1,713百万円となりました。

g. 特別利益、特別損失

固定資産売却益、新株予約権戻入益等の特別利益を8百万円計上いたしました。

h. 四半期純利益

税金等調整前四半期純利益1,722百万円から法人税等402百万円、連結子会社5社における少数株主利益14百万円を差引き、当第1四半期連結累計期間における四半期純利益は前年同期比5.3%減少の1,305百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

現時点においては、平成26年5月16日の「業績予想の修正に関するお知らせ」で公表いたしました通期の連結業績予想を変更していません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

・税金費用の計算

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。なお、法人税等調整額は、法人税等に含めて表示しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	12,926	11,573
受取手形及び売掛金	35,668	37,879
商品及び製品	14,311	16,223
仕掛品	1,045	1,241
原材料及び貯蔵品	426	427
その他	2,422	2,350
貸倒引当金	△465	△508
流動資産合計	66,336	69,187
固定資産		
有形固定資産	6,365	6,236
無形固定資産		
のれん	2,736	2,598
その他	3,870	3,687
無形固定資産合計	6,607	6,285
投資その他の資産	6,355	6,228
固定資産合計	19,327	18,750
資産合計	85,664	87,937
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	28,138	29,551
短期借入金	14,961	15,344
1年内返済予定の長期借入金	3,169	3,214
1年内償還予定の社債	600	600
未払法人税等	834	562
賞与引当金	450	651
その他	2,032	2,122
流動負債合計	50,187	52,046
固定負債		
社債	1,200	1,200
長期借入金	9,982	9,753
役員退職慰労引当金	204	213
退職給付に係る負債	311	324
長期未払金	61	79
その他	2,348	2,211
固定負債合計	14,108	13,782
負債合計	64,296	65,829

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,835	2,835
資本剰余金	1,877	1,877
利益剰余金	12,952	14,034
自己株式	△0	△0
株主資本合計	17,664	18,746
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	304	420
繰延ヘッジ損益	26	△11
為替換算調整勘定	2,837	2,422
その他の包括利益累計額合計	3,168	2,831
新株予約権	38	37
少数株主持分	495	492
純資産合計	21,368	22,107
負債純資産合計	85,664	87,937

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)
売上高	44,961	48,404
売上原価	42,027	45,632
売上総利益	2,933	2,772
販売費及び一般管理費	1,776	1,810
営業利益	1,156	961
営業外収益		
受取利息	21	19
仕入割引	4	4
受取配当金	23	40
為替差益	—	12
不動産賃貸収入	13	20
持分法による投資利益	17	725
その他	27	37
営業外収益合計	108	859
営業外費用		
支払利息	82	81
売上割引	2	3
為替差損	61	—
手形売却損	8	10
不動産賃貸原価	3	2
その他	22	9
営業外費用合計	182	107
経常利益	1,083	1,713
特別利益		
固定資産売却益	—	4
負ののれん発生益	839	—
助成金収入	3	3
その他	—	1
特別利益合計	842	8
特別損失		
固定資産除却損	0	0
投資有価証券評価損	25	—
関係会社清算損	21	—
その他	0	—
特別損失合計	47	0
税金等調整前四半期純利益	1,878	1,722
法人税等	481	402
少数株主損益調整前四半期純利益	1,397	1,320
少数株主利益	18	14
四半期純利益	1,378	1,305

(四半期連結包括利益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	1,397	1,320
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	94	111
繰延ヘッジ損益	72	△37
為替換算調整勘定	1,027	△307
持分法適用会社に対する持分相当額	159	△105
その他の包括利益合計	1,353	△339
四半期包括利益	2,750	981
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,722	968
少数株主に係る四半期包括利益	28	12

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				合計
	軽金属・銅製品	電子・機能材	非鉄原料	建設・産業資材	
売上高					
外部顧客に対する売上高	16,825	17,732	7,204	3,198	44,961
セグメント間の内部売上高又は振替高	171	271	231	112	787
計	16,996	18,004	7,436	3,311	45,748
セグメント利益	338	524	123	107	1,093

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,093
セグメント間取引消去	△9
四半期連結損益計算書の経常利益	1,083

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(重要な負ののれん発生益)

「軽金属・銅製品」セグメントにおいて、大羽精研株式会社の全株式を取得し新たに連結の範囲に含めております。当該事象による負ののれん発生益の計上額は、当第1四半期連結累計期間においては785百万円であります。

「非鉄原料」セグメントにおいて、アルミリサイクル株式会社より大阪アルミセンター事業を譲受けております。当該事象による負ののれん発生益の計上額は、当第1四半期連結累計期間においては53百万円であります。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				合計
	軽金属・銅製品	電子・機能材	非鉄原料	建設・産業資材	
売上高					
外部顧客に対する売上高	18,667	18,544	7,778	3,413	48,404
セグメント間の内部売上高又は振替高	252	686	52	66	1,058
計	18,920	19,231	7,831	3,480	49,463
セグメント利益	1,150	504	26	34	1,716

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第1四半期連結会計期間より一部の組織についてセグメント区分を変更しております。

管理区分を見直したことにより、ALCONIX (THAILAND) LTD. 及びALCONIX LOGISTICS (THAILAND) LTD. は「軽金属・銅製品」から「建設・産業資材」に、ALCONIX HONGKONG CORP., LTD. は「建設・産業資材」から「電子・機能材」に変更しております。また、名古屋支店営業部原料チームは名古屋支店営業部名古屋営業課への統合により「非鉄原料」から「軽金属・銅製品」に変更しております。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

3. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,716
セグメント間取引消去	△2
四半期連結損益計算書の経常利益	1,713